

礼拝メッセージフィードバック

＜今日の聖書箇所は…＞

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

セル ガイド

- ①祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様をさがめます。
- ②互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ディボーションの分かち合いをします。
- ④セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族でいいのです。

- ①この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと？
- ②この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか？（または誉めたいですか？）1つだけ。
- ③聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか？
- ④互いの必要のために祈りましょう。

デーヴォ ガイド



2023.4.3-9

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

L T G ガイド

- ①お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。（2～3つ）
- ②1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディボーションの分かち合い（なるべく短く）
- ④預言の祈り（主の御心を宣言して祈り）をします。

3日 月曜

マタイ



26:6 さて、イエスがベタニアで、ツアラアトに冒された人シモンの家におられると、
26:7 ある女の人が、非常に高価な香油の入った小さな壺を持って、みもとにやって来た。そして、食卓に着いておられたイエスの頭に香油を注いだ。
26:8 弟子たちはこれを見て、憤慨して言った。「何のために、こんな無駄なことをするのか。」
26:9 この香油なら高く売れて、貧しい人たちに施しができたのに。」
26:10 イエスはこれを知って彼らに言われた。「なぜこの人を困らせるのですか。わたしに良いことをしてくれました。」
26:11 貧しい人々はいつもあなたがたと一緒にいます。しかし、わたしはいつも一緒にいるわけではありません。
26:12 この人はこの香油をわたしのからだに注いで、わたしを埋葬する備えをしてくれたのです。
26:13 まことに、あなたがたに言います。世界中どこでも、この福音が宣べ伝えられるところでは、この人がしたことも、この人の記念として語られます。」
26:14 そのとき、十二人の一人で、イスカリオテのユダという者が、祭司長たちのところへ行って、
26:15 こう言った。「私に何をくれますか。この私が、彼をあなたがたに引き渡しませう。」すると、彼らは銀貨三十枚を彼に支払った。
26:16 そのときから、ユダはイエスを引き渡す機会を狙っていた。

あるだろうと思われる香油をイエス様に注ぐとは、「むだなこと」になるかもしれません。しかしそれは、この世しか見ていない価値観です。「貧乏な人たち」を思いやる気持ちは、神様から与えられています。その神である主イエスを愛することは、人への思いやりに先行するものであり、逆に神をないがしろにするなら、それは必ず人をないがしろにすることにつながるです。

ましてやイエス様は全ての人を愛して救うために、恐ろしい十字架への道を進んでいたのです。イエス様を愛することは人をも愛することです。ユダはそれが分らずに、人間中心の価値観でイエス様に失望していたようです。神の永遠の価値観を人のものと同列にしてしまわないように、まず神を第一としましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

この世の価値観だけで言うと、数百万円の価値が



4日 火曜

マタイ



26:26 また、一同が食事をしているとき、イエスはパンを取り、神をほめたたえてこれを裂き、弟子たちに与えて言われた。「取って食べなさい。これはわたしのからだです。」

26:27 また、杯を取り、感謝の祈りをささげた後、こう言って彼らにお与えになった。「みな、この杯から飲みなさい。」

26:28 これは多くの人のために、罪の赦しのために流される、わたしの契約の血です。

26:29 わたしはあなたがたに言います。今から後、わたしの父の御国であなたがたと新しく飲むその日まで、わたしがぶどうの実からできた物を飲むことは決してありません。」

26:30 そして、彼らは賛美の歌を歌ってからオリーブ山へ出かけた。

26:31 そのとき、イエスは弟子たちに言われた。「あなたがたはみな、今夜わたしにつまずきません。『わたしは羊飼いを打つ。すると、羊の群れは散らされる』と書いてあるからです。」

26:32 しかしわたしは、よみがえった後、あなたがたより先にガリラヤへ行きます。」

26:33 すると、ペテロがイエスに答えた。

「たとえ皆があなたにつまずいても、私は決してつまずきません。」

26:34 イエスは彼に言われた。「まことに、あなたに言います。あなたは今夜、鶏が鳴く前に三度わたしを知らないと言います。」

26:35 ペテロは言った。「たとえ、あなたと一緒に死ななければならないとしても、あなたを知らないなどとは決して申しません。」弟子たちはみな同じように言った。

過越しの食事とは、イスラエルがエジプトの奴隷から解放されたことを祝うお祭りの行事で、そのときイスラエルの家だけは裁きを過越されるようにと、子羊の血を入り口に塗ったことを記念しています。これはまさにイエス様が、全人類の裁きを過越していただくために、血を流すことのひな型でした。イエス様はそれを知って、この過ぎ越しの食事を特別なものとして用意なさったのです。

そこでイエス様はご自分の死がどういう意味でどういう目的を持ったものなのかを、弟子たちに語りました。またユダの裏切りを知りつつ彼を行かせたことを記録して、イエス様はご自身の決心によって十字架に架かれたことが明かになっています。

それらが全て人類の救いのためであり、また現に救われている私たち1人1人のためにであることを覚えて、感謝しつつイエス様の愛を心に味わいましょう。

イエス様が「あなたがたは…つまずきます。」と警告なさいましたが、弟子たちは「決してつまずきません。」と、自分の信仰を過信していました。さらにイエス様が「死ぬほど」の祈りをしているときでさえ、眠ってしまいました。

本当に私たち人間は霊も肉も弱いので、祈って神様に助けていただくほかありません。決して高ぶらないように、また安心しきらないようにしましょう。

主イエスの思いを教えていただくには、自分の力では不可能で、聖霊様により頼む以外ありません。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



5日 水曜

マタイ



26:36 それから、イエスは弟子たちと一緒にゲツセマネという場所に来て、彼らに「わたしがあそこに行って祈っている間、ここに座っていなさい」と言われた。

26:37 そして、ペテロとゼベダイの子二人と一緒に連れて行かれたが、イエスは悲しみもだえ始められた。

26:38 そのとき、イエスは彼らに言われた。「わたしは悲しみのあまり死ぬほどです。ここにいて、わたしと一緒に目を覚ましていなさい。」

26:39 それからイエスは少し進んで行って、ひれ伏して祈られた。「わが父よ、できることなら、この杯をわたしから過ぎ去らせてください。しかし、わたしが望むようにではなく、あなたが望まれるままに、なさってください。」

26:40 それから、イエスは弟子たちのところに戻って来て、彼らが眠っているのを見、ペテロに言われた。「あなたがたはこのように、一時間でも、わたしとともに目を覚ましていられなかったのですか。」

26:41 誘惑に陥らないように、目を覚まして祈っていなさい。霊は燃えていても肉は弱いのです。」

26:42 イエスは再び二度目に離れて行って、「わが父よ。わたしが飲まなければこの杯が過ぎ去らないのであれば、あなたのみこころがなりますように」と祈られた。

26:43 イエスが再び戻ってご覧になると、弟子たちは眠っていた。まぶたが重くなっていたのである。

26:44 イエスは、彼らを残して再び離れて行

き、もう一度同じことばで三度目の祈りをされた。

26:45 それから、イエスは弟子たちのところに来て言われた。「まだ眠って休んでいるのですか。見なさい。時が来ました。人の子は罪人たちの手に渡されます。」

26:46 立ちなさい。さあ、行こう。見なさい。わたしを裏切る者が近くに来ています。」

26:47 イエスがまだ話しておられるうちに、見よ、十二人の一人のユダがやって来た。祭司長たちや民の長老たちから差し向けられ、剣や棒を手にした大勢の群衆も一緒にあった。

26:48 イエスを裏切ろうとしていた者は彼らと合図を決め、「私が口づけをするのが、その人だ。その人を捕まえるのだ」と言っておいた。

26:49 それで彼はすぐにイエスに近づき、「先生、こんばんは」と言って口づけした。

26:50 イエスは彼に「友よ、あなたがしようとしていることをしなさい」と言われた。そのとき人々は近寄り、イエスに手をかけて捕らえた。

ゲツセマネの祈りは、天の父への不平不満の祈りであるはずがありません。そんな思いならば主イエスは初めから十字架を避けていたでしょう。十字架にかかるという意味があればこそその祈りです。

それと同時に、十字架刑というものがどれほど残酷で苦しいものを知っておられたということです。それに関わらず、主イエスは十字架への道を進んだということです。それは主イエスが人として苦しまなければならないということを明確にしています。

神であり人であるこの方こそが、人類の罪を全

てを負って、身代わりの十字架に架かってくださったのです。

さらにそれは、恐れだけではなく「悲しみ」の極みでもありました。弟子からも、何よりも天のお父さんからも、見放されて十字架でただ一人、気も狂わんばかりの激痛・苦しみに耐えなければならないのです。「できることなら...」とは真実な思いであり、「あなたが望まれるままに...」というのは真実な信頼です。

私たちは眠っていた弟子たちのようではなく、心を覚まして、イエス様の「悲しみ」と決心と、さらには愛を深く感じられる者でありましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



6日 木曜

マタイ



27:15 ところで、総督は祭りのたびに、群衆のため彼らが望む囚人を一人釈放することにしていました。

27:16 そのころ、バラバ・イエスという、名の知れた囚人が捕らえられていた。

27:17 それで、人々が集まったとき、ピラトは言った。「おまえたちはだれを釈放してほしいのか。バラバ・イエスか、それともキリストと呼ばれているイエスか。」

27:18 ピラトは、彼らがねたみからイエスを引き渡したことを知っていたのである。

27:19 ピラトが裁判の席に着いているときに、彼の妻が彼のもとに人を遣わして言った。

「あの正しい人と関わらないでください。あの人のことで、私は今日、夢でたいへん苦しい目にあいましてから。」

27:20 しかし祭司長たちと長老たちは、バラバの釈放を要求してイエスは殺すよう、群衆を説得した。

27:21 総督は彼らに言った。「おまえたちは二人のうちどちらを釈放してほしいのか。」彼らは言った。「バラバだ。」

27:22 ピラトは彼らに言った。「では、キリストと呼ばれているイエスを私はどのようにしましょうか。」彼らはみな言った。「十字架につける。」

27:23 ピラトは言った。「あの人がどんな悪いことをしたのか。」しかし、彼らはますます激しく叫び続けた。「十字架につける。」

27:24 ピラトは、語ることが何の役にも立たず、かえって暴動になりそうなを見て、水を取り、群衆の目の前で手を洗った。

「この人の血について私には責任がない。お

まえたちで始末するがよい。」

27:25 すると、民はみな答えた。「その人の血は私たちや私たちの子どもらの上に。」

27:26 そこでピラトは彼らのためにバラバを釈放し、イエスはむちで打ってから、十字架につけるために引き渡した。

バラバの一件は、福音書の中でマタイが一番詳しく書いています。マタイの福音書はユダヤ人を中心的に念頭に置いているので、そのユダヤ人がイエスを十字架につけたことを明確にする意図があったのかも知れません。それは告発のためではなく、ユダヤ人をも回心させるためです。

私たちもここを読むときには、自分の罪がイエス様を十字架につけたのだという理解が大切です。その思いによって、回心の信仰をさらに深くさせていきたいと思います。

さらには、自分自身をバラバになぞらえることも必要です。イエス様が十字架にかかってくださったので、私はバラバのように釈放されたということです。

身代わりによって永遠の死から解放された喜びを味わいましょう。安心と自由を味わいましょう。そしてすぐさま、身代わりとなってくださった主イエスのもとに走り、感謝の思いでひれ伏しましょう。そのような歩み方をしましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



7日 金曜

マタイ



27:35 彼らはイエスを十字架につけてから、くじを引いてその衣を分けた。
27:36 それから腰を下ろし、そこでイエスを見張っていた。
27:37 彼らは、「これはユダヤ人の王イエスである」と書かれた罪状書きをイエスの頭の上に掲げた。
27:38 そのとき、イエスと一緒に二人の強盗が、一人は右に、一人は左に、十字架につけられていた。
27:39 通りすがりの人たちは、頭を振りながらイエスをののしった。
27:40 「神殿を壊して三日で建てる人よ、もしおまえが神の子なら自分を救ってみろ。そして十字架から降りて来い。」
27:41 同じように祭司長たちも、律法学者たち、長老たちと一緒にイエスを嘲って言った。
27:42 「他人は救ったが、自分は救えない。彼はイスラエルの王だ。今、十字架から降りてもらおう。そうすれば信じよう。」
27:43 彼は神に抛り頼んでいる。神のお気に入りなら、今、救い出してもらえ。『わたしは神の子だ』と言っているのだから。」
27:44 イエスと一緒に十字架につけられた強盗たちも、同じようにイエスをののしった。
27:45 さて、十二時から午後三時まで闇が全地をおおった。
27:46 三時ごろ、イエスは大声で叫ばれた。「エリ、エリ、レマ、サバクタニ。」これは、「わが神、わが神、どうしてわたしをお見捨てになったのですか」という意味である。
27:47 そこに立っていた人たちの何人かが、これを聞いて言った。「この人はエリヤを呼

んでいる。」

27:48 そのうちの一人がすぐに駆け寄り、海綿を取ってそれに酸いぶどう酒を含ませ、葦の棒に付けてイエスに飲ませようとした。
27:49 ほかの者たちは「待て。エリヤが救いに来るか見てみよう」と言った。
27:50 しかし、イエスは再び大声で叫んで霊を渡された。
27:51 すると見よ、神殿の幕が上から下まで真つ二つに裂けた。地が揺れ動き、岩が裂け、
27:52 墓が開いて、眠りにっていた多くの聖なる人々のからだが生き返った。
27:53 彼らはイエスの復活の後で、墓から出て来て聖なる都に入り、多くの人に現れた。

「衣を分けた」というのは、預言されていたことであって、イエス様の死が旧約の預言成就であることが分かります。イエス様は二人の強盗と同等に扱われました。これもまた預言の成就です。しかし全ての人がイエス様の敵となり、嘲り、そして蔑んだことが分かります。

「わが神、わが神、どうして...」というのは詩篇のメシヤ預言の1節です。イエス様はその預言がまさに今、ご自分に成就していることを思いつつ、苦しみ耐えていたことでしょう。

そして今、旧約の約束が根本的に成就しました。神と人とを隔てる「神殿の幕」が裂け、神と人とが和解する道が開けたのです。

このような救いを受けた私たちです。この奇跡を忘れないように、日々、愛の主イエスとともに歩みましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



53:4 まことに、彼は私たちの病を負い、私たちの痛みを担った。それなのに、私たちは思った。神に罰せられ、打たれ、苦しめられたのだと。

53:5 しかし、彼は私たちの背きのために刺され、私たちの咎のために砕かれたのだ。彼への懲らしめが私たちに平安をもたらし、その打ち傷のゆえに、私たちは癒やされた。

53:6 私たちはみな、羊のようにさまよい、それぞれ自分勝手な道に向かって行った。しかし、【主】は私たちすべての者の咎を彼に負わせた。

53:7 彼は痛めつけられ、苦しんだ。だが、口を開かない。屠り場に引かれて行く羊のように、毛を刈る者の前で黙っている雌羊のように、彼は口を開かない。

53:8 虐げとさばきによって、彼は取り去られた。彼の時代の者で、だれが思ったことか。彼が私の民の背きのゆえに打たれ、生ける者の地から絶たれたのだと。

53:9 彼の墓は、悪者どもとともに、富む者とともに、その死の時に設けられた。彼は不法を働かず、その口に欺きはなかったが。

53:10 しかし、彼を砕いて病を負わせることは【主】のみこころであった。彼が自分のいのちを代償のささげ物とするなら、未長く子孫を見ることができ、【主】のみこころは彼によって成し遂げられる。

53:11 「彼は自分のたましいの激しい苦しみのもとを見て、満足する。わたしの正しいしもべは、その知識によって多くの人を義とし、彼らの咎を負う。

53:12 それゆえ、わたしは多くの人を彼に分

け与え、彼は強者たちを戦勝品として分かち取る。彼が自分のいのちを死に明け渡し、背いた者たちとともに数えられたからである。彼は多くの人の罪を負い、背いた者たちのために、とりなしをする。」

4～6節は、主イエスが何のために苦しめたのか記されています。7節からは、段落ごとに、柔和なキリスト、勝利の結果…という流れで預言されています。主は背いた者を捨てたままではなく、命の犠牲を払って勝利してくださいました。この勝利によって、私たちは罪と死に打ち勝たせていただくことができるのです。

今も主イエスは心優しく、多くの罪人を待っておられます。不信仰な人々は、その主を見くびっていますが、それは身に苦難を招くのだということを知る必要があります。私たちは主の従順に倣って、その愛を伝える必要があります。愛の主は愛によって伝わるのだと知しましょう。

イエス様の満足が、自分のためではなく、「激しい苦しみのもとを見て」の満足であることに心を留めましょう。御父に従って自分の愛を貫くことができたという思いでしょうか。

私たちも自分で満足できるような愛の行い、または内に働かれる聖霊様が満足されるような愛の行いを成し遂げてみましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



28:1 さて、安息日が終わって週の初めの日の明け方、マグダラのマリアともう一人のマリアが墓を見に行った。

28:2 すると見よ、大きな地震が起こった。主の使いが天から降りて来て石をわきに転がし、その上に座ったからである。

28:3 その姿は稲妻のようで、衣は雪のように白かった。

28:4 その恐ろしさに番兵たちは震え上がり、死人のようになった。

28:5 御使いは女たちに言った。「あなたがたは、恐れることはありません。十字架につけられたイエスを捜しているのは分かっています。

28:6 ここにはおられません。前から言っておられたとおり、よみがえられたのです。さあ、納められていた場所を見なさい。

28:7 そして、急いで行って弟子たちに伝えなさい。『イエスは死人の中からよみがえられました。そして、あなたがたより先にガリラヤに行かれます。そこで会えます』と。いいですか、私は確かにあなたがたに伝えました。」

28:8 彼女たちは恐ろしくはあったが大いに喜んで、急いで墓から立ち去り、弟子たちに知らせようと走って行った。

28:9 すると見よ、イエスが「おはよう」と言って彼女たちの前に現れた。彼女たちは近寄ってその足を抱き、イエスを拝した。

28:10 イエスは言われた。「恐れることはありません。行って、わたしの兄弟たちに、ガリラヤに行くように言いなさい。そこでわたしに会えます。」

28:11 彼女たちが行き着かないうちに、番兵たちが何人か都に戻って、起こったことをすべて祭司長たちに報告した。

28:12 そこで祭司長たちは長老たちとともに集まって協議し、兵士たちに多額の金を与えて、

28:13 こう言った。「『弟子たちが夜やって来て、われわれが眠っている間にイエスを盗んで行った』と言いなさい。

28:14 もしこのことが総督の耳に入っても、私たちがうまく説得して、あなたがたには心配をかけないようにするから。」

28:15 そこで、彼らは金をもらって、言われたとおりにした。それで、この話は今日までユダヤ人の間に広まっている。

メシヤの復活は預言されていましたが、にわかには信じられないようなことでした。なのでトマスはすぐには信じられませんでしたし、「イエスを盗んで行った」といううわさも、まことしやかに話されたのです。しかしこれは歴史的な事実であり、神の真実です。

多くの記録が弟子の存命中に書かれ、検証された上で残されています。死んだイエスが腐ってゆくを見ながら、イエスの復活を宣教するなどは考えられないことです。

まさにイエス様は人類の初穂として、事実復活なさったのです。私たちは当然、復活を事実として受け入れます。そうでなければ、神が命を創造することさえ信じられないことになってしまいます。そしてただ受け入れるだけでなく、復活の希望を持ちましょう。

イエス様は単によみがえったというだけではなく、その権威のゆえに、信じる者たちに使命を与えられました。私たちも、この大弟子化命令を受け取って行きましょう。すなわち、自分自身がイエス様の弟子となり、愛と宣教によって弟子を育

てて行きましょう。それがクリスチャンの基本姿勢です。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのど





の部分を主は扱おうとしておられますか)

④この世にあって何を実践しますか？

